

あかやま



「爽やかな生意気」そして、「最適解」と「納得解」

校長 中西 正実



【まずはご挨拶】

4月の校長着任式においても少しお話しをしましたが、私は大阪で生まれ育ち、大学進学をきっかけに島根県にやってきた、いわゆるIターン者です。

大学を卒業後、教員となって現在に至っておりますが、当時受験のために一人で松江に訪れた時に目にした、宍道湖や松江城そして街並みの美しさはとても印象的で、その時の感覚は今も色あせてはいません。本当に良いところに住んでいると心からいつもそう思っています。

その松江の地で、令和8年に創立150年を迎える島根県で最も歴史と伝統のある、この松江北高校で校長として勤務できるご縁に、感謝いたしますとともに、その責任の大きさを改めて感じつつ日々業務に取り組んでおります。

【着任時に職員と生徒たちに伝えたこと】

さて、私は着任にあたって本校の職員と生徒たちに、「爽やかな生意気」を育てる学校でありたいと投げかけました。

この「爽やかな生意気」という言葉は、社会や組織をけん引したり支えたりすることができる力、いわば「健全な批判力」を有した若者をイメージした時、私の頭の中に浮かんだものです。単なる指摘や評価でもなく、ましてや相手を攻撃する言葉でもない、それは、社会や組織をより良い方向に導く「提案」や「投げかけ」であると私は考えています。この「健全な批判力」を身につけるために、職員も生徒も互いに切磋琢磨し合い、トライ・アンド・エラーを恐れずに学びに向き合って欲しいと願っています。

【最適解と納得解】

その上で、組織としての方向性や意思を決定するとき、データや根拠に裏打ちされた「最適解」を導き出すことが理想ではありますが、実際の学校運営では「白か黒か」や「○か×か」で簡単に判断できないケースが少なくありません。

教育においては、「世の中の普通」だけでなく「教育上正しいこと」や「人としてあるべきこと」、そして「教師の思い」や「生徒・保護者の思い」また、「学校を取り巻く環境」など善悪やメリット・デメリットで簡単に解決できない場面も多々あります。

このようなことから、「最適解」とは別に、メンバー全員が「よし、これでいこう」あるいは「これでいくしかない」と共通認識をもつこと、いわば「納得解」が大切になってきます。これは、ビジネスの世界 において種なると聞きます。

私は、今後さらに複雑化していく社会で生きていく上では、この「最適解」と「納得解」の両方を導き出す力が、とても重要になってくると考えています。生徒の皆さんには、ぜひこの力の修得に向けて、日々の活動に取り組んで欲しいと思いますし、私自身も常にこのことを念頭に置いて仕事に向き合っています。生徒や本校の職員にも機会を捉えて改めて投げかけてみたいと考えます。

将来、本校を巣立った多くの「爽やかな生意気」たちが「健全な批判力」、そして「最適解」と「納得解」をもって、様々な世界 でたくましく活躍してくれることを心から願っています。



新入生へのメッセージ

1年学年主任 坪倉 将

1年生の皆さんの入学から、はや4か月が経とうとしています。1年生の折り返し地点が近づきつつあるいま、皆さんへ改めて「メッセージ」を送ります。

● 柔らかくぶつかり合おう

1つ目は、入学式の日にも皆さんに伝えたことですが、改めて。高校では、中学校までと比べてはるかに多くの仲間と一緒に時間を過ごします。そのひとりひとりが、特徴、強み/弱み、考え方や性格、色々な点において唯一無二です。そんな「バラバラ」な人たちが、1つの空間で一緒に学習したり、部活をしたり、遊んだりする。その中で、気の合う仲間が新たにできたり、自分の感じ方や考え方が変化したりする。時には、自分とは違うタイプの人と接することに疲れたり、嫌な気分になることもある。そういう経験を通して、今までの自分とはどこか違う自分に変化していく。

これから先も、色々な仲間や先生とぶつかっていこう。色々な人の考え方や生き方、言葉の選び方に触れて、自分を磨き上げていこう。そんなあなたの変化が、他の誰かのバージョンアップにもつながっていきます。



一流のスポーツ選手は口を揃えてこう言います。現状維持は衰退だ、と。自分の気持ちも相手の気持ちも大切にしつつ、柔らかくぶつかり合える北高生であってください。

● 選択肢がある方が楽しい

2つ目は、先日の学年通信でも皆さんに伝えたことですが、改めて。それは、「選択肢がたくさんあることはやっぱり楽しい」ということです。例えば、若い世代の多くがテレビよりYouTubeなどに魅力を感じるのもコンテンツ（選択肢）の多さが理由の1つだろうと思います。

人生にも同じことが言える気がしています。今後の人生の岐路において、「選べるのはこの道しかない」という選び方よりも、「これもあれも選べるけど、自分はこれを選ぼう」という選びの方が楽しい気がします。選択肢は誰かに与えられるものではなく、自分の力で増やしていくもの。

2年後、5年後、10年後の自分にたくさんの選択肢をあげられるように、いま、時間を大切に使うってほしいと思います。

● 人生は常にマルチタスク

きっと皆さん、北高での生活は忙しいことでしょう。でも、これから先の人生は常にマルチタスクです。限られた時間を、いかに効率よく使うか。見方を変えれば、「忙しい」というのは、1日=24時間の中でバラエティに富んだ頭の使い方や感情の動き方ができているということだと思います。授業・部活・生徒会活動・探究活動・趣味…。マルチタスクを楽しめる北高生であってほしいと思います。



松江北高校
創立150周年
事業

劇団四季 『赤毛のアン』公演(9月26日)に 込められた思いとは

公演決定までの経緯

双松会(卒業生会)で、昨年度から記念行事について議論を進めてきました。記念行事の目玉企画として、世界で活躍する北高の先輩方の講演等の案が出ましたが、そういった機会は普段の教育活動でも可能ですよ。せっかくの150周年の節目ですので、普段はなかなかできないことにチャレンジし、より多くの生徒や保護者の共感を呼ぶものにした!と考案がソフトしていきましたね。

劇団四季を誘致した理由

劇団四季には3名の北高卒業生(52期の岸さん、63期の高橋さん、66期の田邊さん)が在団され、全国を飛び回って活躍中です。中でも田邊さんは北高卒業後の進路が劇団四季入団なので、本公演を機に、進路の多様性と未来の可能性を生徒たちが肌身で感じてくれたらと思います。

公演が決定した運命の日

劇団四季の経営陣への直接のコンネクションはなかったのですが、幸いにもいくつかの奇跡的な縁により、昨年の12月26日に劇団四季の吉田社長との面会が実現しました。双松会からは景山幹事長と私。それから社長と直接縁を取り持ってくださいましたYさんにも同席いただき、浜松町にある本社にて面会が叶いました。オフィスですでに社長が私たちを待っていていたのには感激しました。そして社長は私たちの『魂のプレゼン』に耳を傾け、北高向けの公演をなんとその場で即断してくださいました!



公演会場についてのエピソード

150周年目となる令和8年の公演を希望していたのですが、いつも劇団四季が公演されている県民会館の改装時期と重なり、劇団四季とのスケジュール調整が難航しました。そこで他施設での開催を打診したところ、社長はすぐにその場で収容人数や音響等について調査され、可能性を探ってくださいました。社長から某施設のパイプオルガンが取り外しできるか尋ねられたときには、驚くことにもその手腕にただただ感服いたしました。しかし結局、他施設での開催は設備等の都合で不可能だということが分かり、話は振り出しに戻ってしまっただけです。

キセキの1日

そこで今年(令和7年)開催の案が出たんです。実は面会前に幹事長とは前倒しでの開催についても話していたので、今年の開催に異存はなく、急遽その方向で考えることになりました。ですが劇団四季のスケジュールというのは本当にびっしり埋まっているんです。状況は厳しかったですね。それでも社長はあらゆる可能性を必死に探ってくださいました。そして奇跡的に、たった1日だけ公演が可能であることが判明したんです!

それが「令和7年の9月26日」でした!まさにキセキの1日です。私たちはすぐさま県民会館に電話し、運よく空いていたその日を即仮予約しました。いっぽう社長もその場でキャストやスタッフを調整され、お見積もりをいただくという段階まで、あつという間の出来事でした。

社長とご挨拶を交わしてからここまで、実にたったの1時間です。この1時間で起きたことを思い返すと、本当に一つのドラマのようです。かみ合う可能性はほとんどなかったのに、最後の最後にぴったりとかみ合った。劇団四季側と松江北高の隙間が埋まった瞬間です。その日の夜のお酒は美味しかったですね。

県内の中学生を無料招待!

今回の公演は、松江北高創立150周年記念の大きな前夜祭になります。この公演を通じて、松江北高が目指す教育理念の一端を多くの方々を知っていただけたらと思います。在校生や保護者の皆さまにはもちろん、卒業生や高校進学を考えている中学生にも「進化する松江北高」をぜひ感じていただきたいです。更に!なんと1500の座席の内、半分は北高生諸君に、残り約700席は県内の中学生を招待する予定です。名門校というだけではない、北高の新しい姿を中学生に見てもらえたらと願っています。

伊藤先生をはじめ、北高を支えてくださるたくさんの方々のご尽力により、今回の劇団四季の公演に繋がったことを知り、大変感激しました。なお夏休みには、放送部から田邊さんへのインタビューが予定されているとのこと(北高教頭・武藤先生談)。こちらも楽しみです!



北高前校長 伊藤康子先生 × PTA 広報委員

公演実現に向けて奔走された準備委員会メンバーの一人である伊藤前校長に突撃インタビューを実施してきました!!

DXハイスクール事業採択により 北高はこう変わる!!

松江北高校が文部科学省による令和7年度高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)に採択されました。本事業により具体的にどのように活用されるのか、PTA広報委員が門脇勤主幹教諭にインタビューしました。



事業の期間や金額、目標はどういったものですか。

期間は単年度、金額は1,000万円です。北高では、デジタルを活用した探究的な学びの深化を目標としています。

具体的には、事業資金は何に使って、教育環境はどう変わりますか。

一人1台のPC配布により使わなくなったPC教室の設備を改善して、ICT探究ルームとしてデジタル環境を整備する計画です。

- 高機能PCの整備
- 外部連携を目的とした双方向通信が可能なシステム整備
- 関連書籍の購入

まずは理数科の探究活動を中心に利用し、その後普通科の探究活動をはじめ教育活動全体に広がってまいります。



保護者や生徒に期待することはありますか。

今後、先進校の視察や民間企業の意見を聞いて、具体的な活用方法を模索する予定です。また、先生や保護者の方々、生徒からの希望を取り入れる余地もあると考えているので、具体的に活用方法やICTルームの名称についてもアイデアがあれば提案して欲しいです。



ICTルームのイメージ図

門脇先生からのお話をお伺いして、探究活動におけるデジタル環境の改善が進むことへの期待を感じるとともに、具体的なアイデア次第で自ら改善していく余地もあるようで、完成が楽しみになりました。

全国大会出場部活動紹介

弓道部

このたび、インターハイに出場できることを大変嬉しく思います。初めての舞台というもありますが、多くの支えへの感謝を胸に一射一射を大切に悔いのない試合を目指します。応援のほどよろしくお祈りいたします。



演劇部

かがわ総文祭演劇部門に中国地方代表の生徒講評委員として参加します。第一に演劇を楽しみ、また鑑賞、講評を通して得られた気づき、視点を自らの表現の糧にできるよう誠実に取り組みたいと思います。



男子登山部

全国大会に出場できる喜びを胸に仲間と支え合い、悔いの残らないように全力を尽くして頑張ります。また日頃の練習の成果を発揮し、最高の登山をしてきます。応援よろしくお祈りいたします。

女子登山部

女子登山部です。私たちはインターハイでベスト16に入ることを目標にしています。真夏の暑い中の登山行動なので、熱中症にならないようトレーニングに励んでいます。4人みんなで力を合わせ 助け合いながら最後まで楽しく登りきりたいです。

放送部

私たちは7月22日から東京で行われる全国大会に出場します。放送部の活動は、先生方や生徒の皆さんをはじめ多くの方々のご協力なくしては成り立ちませ ん皆さんのおかげで全国の舞台に立てることに心から感謝し、全力を尽くしてきます。

自然科学部

自然科学部の籠橋です。私は今まで米麴こめこうじについて研究してきました。総文祭では、これまでの研究成果はもちろん、研究対象である米麴への愛を存分に発表していきたいです。精一杯頑張りますので応援よろしくお祈りいたします。

囲碁部

こんにちは、囲碁部です。僕たちは7月25・26日に香川県で行われる総文祭、8月4~6日に東京都で行われる全国大会に出場します。団体戦は昨年悔しい結果に終わってしまいました。今年は昨年より1つでも多く勝ってきます。応援よろしくお祈りいたします。

女子ボート部

昨年の全国大会では僅差で敗れ、悔しい結果となりました。今年は中国1位の称号を自信に自分たちの最高のレースをしてきます。特に3年生は最後の大会として限界までチャレンジすることを目標に漕ぎ切りたいと思います。

男子ボート部

インターハイにシングルスカルで出場します。入部したときから全国大会出場を目標に掲げ、練習に励んできました。やっと叶った全国の舞台で決勝進出を目標に漕いでいきます。応援よろしくお祈りいたします。

百人一首かるた部

7月末に滋賀県で行われる選手権大会と香川県で行われる総文祭に出場します。昨年の選手権大会ではあと一歩のところまで負けてしまい悔しい思いをしたので、今まで支えてくださった方々への感謝を忘れず今年はいい結果を残せるよう精一杯頑張ります。